

海つばめ

マルクス主義同志会 機関紙

2011年5月1日号外

ホームページ = <http://mcg-j.org/>

〒179-0074 東京都練馬区春日町1-11-12-409

全国社研社 TEL 03(6795)2822

災害は「政治的、社会的」災害だ

菅内閣だったのは日本の不幸 東北の労働者人民の災厄と困苦の責任を問う

原発事故の被害は広がり、終息の見通しさえ立たず、多くの人が棲み家を追われ、いつ終わるともしれない避難生活を強いられる。

原発事故の被害は広がり、終息の見通しさえ立たず、多くの人が棲み家を追われ、いつ終わるともしれない避難生活を強いられる。

ある意味では、原発事故の原因はたわいもないものである、つまり原子炉の冷却を可能にする、緊急時のための電源を確保する施設が利用できなくなった、非常用のディーゼルエンジンが動かなくな

った、といった「ざさいな」ことにすぎない。

つまりそんな単純なことに、しっかりとした防御体制がどこ

にあり、今回の原発事故はほとんど防げたのだから、政府や官僚、議員や電力資本たちが「安全神話」に安住して、万全の措置をネグレクトして来た罪は大きく、犯罪的ですらある。

津波によって海水につかったり、安全施設が流されたりしたのが決定的だったというのだから、開いた口が塞がらないというものである。もし「絶対に安全」というなら、その言葉に責任を持つな

ら、仮に数百億円かかろうとも、そんな力ネを惜しむべきではない、というのは当たり前のこと、普通のことではないのか。

津波によって海水につかったり、安全施設が流されたりしたのが決定的だったというのだから、開いた口が塞がらないというものである。もし「絶対に安全」というなら、その言葉に責任を持つな

ら、仮に数百億円かかろうとも、そんな力ネを惜しむべきではない、というのは当たり前のこと、普通のことではないのか。

災害無策と保身の菅民主党政権打倒！

★原発事故は人災だ！

「安全神話」にあぐらをかいた電力資本・与野党政治家・官僚ら糾弾！

★震災増税、国債乱発・インフレ政策を許すな！

震災復興に名をかりた大衆収奪、断固反対！

★非正規労働者の雇用と労働条件を守れ！

メーデー自粛の勘違い連合タラ幹糾弾！

★二大悪「政党的自民・民主、エセ革新の社共弾劾！
新しい労働者政党を建設し、労働者の政治的進出を勝ちとろつ！

性物質の大量拡散、飛散といった「最悪の」事態まで招いたのである。我々は、こうしたひどい事態をもたらした責任の重大な一端

は、菅内閣や東電資本のトップにこそある、と断言し、彼らの責任と犯罪を徹底的に追及する。

これは実際、単なる「人災」を超えて、国や政府による、さらには自民党や民主党を先頭とする政党や議員たちによる「政治的」災害であり、また電力資本（ひいては総資本）による「社会的」災害、階級的「災害（支配階級や権力者たちが引き起こした「災害」）であ

って、まさに労働者は、原発災害をそうしたものとして明らかにし、彼らを断固として弾劾し、その責任を徹底的に明らかにしなくてはならないのだ。

実際、大災害と事故の最初の段階から、菅の関心は自分の政権が存続すること、そのためにこうした状況を最大限利用しようということであり、発生した危機を保身という個人的野心に従属させることであつた。彼が熱心にやったことは、パフォーマンズであり、自分が懸命にやっているというゼスチュアであり、見せ掛けであつて、おそるべき危機に賢明に、全責任を自覚して対処しようということではなかった。

大災害のときに、民主党の菅内閣が存在したことは、日本の労働者人民にとって不幸ではあつたが、もちろんこれは、自民党政権や公明党や共産党の政権だったらよりましだったということを少しも意味しない。

エネルギー革命は資本主義とともに 危険なのは核エネルギーかその資本による利用か

「絶対安全」と政府や電力資本、インテリたちが強調し、請けあってきた原発事故が発生し、多くの住民に深刻な被害を及ぼし、その被害は収束する展望さえ見せていません。

人類は核エネルギーをどう扱うのか、その特殊な「危険性」をよく確認した上で、その巨大なエネルギーを利用して行くのか、行けるのか、それともその利用をやめるのか、という重大な問題に、改めて直面しているのです。

もちろん、核エネルギーの利用は、医療などではすでに広範囲に利用され、大きな意義を持っています。が、今問題になっているのは、その大規模な利用、つまり原発です。

もう一つの大規模な利用は原発ですが、もちろんそんなものは問答無用で廃棄すべきですが、しかし世界の強大国は核兵器で武装した国家ばかりで、しかもさらに増え続けています。

そしてまた、原発もまた核兵器と同様に、資本主義の強大国の発展と不可分であって、アメリカはもちろんロシアや台頭する中国もまた、原発を推進し、例えば、中国などは今は13基稼働中ですが、28基をすでに建設中で、将来は200基体制に移る、と公言しています。日本など足もとにも及ばないような、恐ろしい原発大国です。

資本主義的大国として、世界

の覇権国として登場するために、それが不可欠であり、きわめて大きな実質的な意義がある、と判断しているのです。中国や、あるいは世界の多くの国は、経済的に発展し、豊かな大

国、世界の覇権を争う強国として登場するためには、核兵器だけでなく、原発もまた決定的に重要だと考えているのです。

実際、資本主義の発展、国家の発展はエネルギー革命の進展と密接に結びついていました。単に木や草を燃やしているようなエネルギー状態では、大工業は不可能で、せいぜい自給経済や封建経済を超えられませんでした。化石燃料（石炭や石油）の利用こそ、資本主義の急速な発展の原動力でした。

もちろん、資本は化石燃料の「危険性」など第一義的に、優先して考慮することはありませんでした。石炭を掘り出す危険な仕事に多くの労働者が従事し、年々何千、何万の労働者が落盤や炭塵爆発などで命を落としたり、一酸化炭素中毒で廃人にな

るだけ効率的で、コストも小さく、利潤を大きくすることを目的とする生産のやり方、生き死にをかけた競争の中で、「安全」とか、労働者のことなど考えることのできない生産こそ、化石燃料や核エネルギーをいくらでも「危険な」ものにする根本原因であって、そもそもどんな人類にとって有益なエネルギーも、その本当の「危険」というのは、生産関係から来ていると言わなければならない。

人類が高度な核エネルギーの有効な利用という段階に達したということは、その悪魔的な利用である核兵器の登場からも明らかのように、資本主義を克服し、止揚して行くべき歴史的段階に、人類が到達したということではないでしょうか。

利潤と競争のための生産こそが、そして資本の国家と国家が争い、武力に頼り、戦争に訴えるような世界が、最も「危険な」ものであり、それがこそ人類の滅亡——それがもしあり得るとするならば、ですが——をもたらすのです。

出版物のご案内

黎明期の一途さと輝きと

——不滅なり！明治の労働運動、社会主義運動
町田 勝 著 定価2100円

鳩山政権の九ヵ月

林 紘義 著 定価2100円

資本の無政府主義の横行闊歩 そして蔓延する国家の無政府主義

林 紘義 著 定価3150円

機関紙『海つばめ』

政治・経済・労働運動・理論・文化など多彩な内容
●隔週日曜日発行 大判4頁 1部200円
●定期購読料(送料共) 半年3300円 一年6600円
(電子版…半年2600円、一年5200円)

理論誌『プロメテウス』

54号 特集・菅民主党のイデオロギーと「体質」
53号 特集・ケインズ主義批判
52号 特集・鳩山政権の錯誤 [各号800円]

●連絡先●

全国社研社・マルクス主義同志会
〒179-0074 東京都練馬区春日町1-11-12-409 TEL 03(6795)2822

●マルクス主義同志会のホームページ●

<http://mcg-j.org/>